

■徳川斉昭(烈公) 第9代水戸藩主。特異な個性で、諸藩に先駆けて天保改革、尊王攘夷標榜して幕閣と対立、維新への道を開いた。

とくがわなりあき
伊能測量始・1800＝

江戸の水戸藩邸で、外山氏瑛想院を母に、**水戸藩第7代藩主徳川治紀の三男に生まれる。**
35万石で、御三家では最も小さく、藩主は代々、江戸に常駐して、將軍を支えてきた水戸藩は、**2代藩主徳川光圀が編纂した「大日本史」と、その精神に基づく水戸学が根付いており、**

いづろ来航・1804＝4歳：通商を求めて来日したロシア船が来日、幕府が拒絶したため、樺太や択捉が襲撃される。**藤田幽谷の高弟で、彰考館に勤め、対外問題を論じる「千島異聞」を著して間もない会沢正志斎が侍読になると、**

間宮海峡発見1808＝8歳：長崎に、イギリス船が不法入港、人質をとり、水や燃料を要求して、幕府に衝撃を与えるなど、
浮世風呂・・・1809＝9歳：

海岸線の長い水戸藩では、外国船への警戒が高まってゆく。

その影響を受けて、尊王攘夷の思想を固め、外圧が高まるとともに、前面に打ち出していくようになる。

水野忠成老中1818＝18歳：

いぼの鳴滝塾1824＝24歳：藩内の大津浜に、食糧を求めて、2隻の外国船が漂着、上陸したイギリス人船員を捕縛して尋問する間、船は空砲を鳴らして、威嚇し続けるという事態が発生、

日本外史・・・1827＝27歳：

いぼの事件・1828＝28歳：

いぼの追放・1829＝29歳：***兄斉脩の跡を継いで第9代藩主となるや、幕府や諸藩に先駆けて、天保改革に着手。**

天保大飢饉始1833＝33歳：1年間、水戸に帰って領内を巡視。この時、後に日本三名園となる「偕楽園」を構想し、整備を始める。

・・・1836＝36歳：

大塩平八郎乱1837＝37歳：

適塾オープン・1838＝38歳：

蚕社の獄・・・1839＝39歳：

**優れた藩士を育成すべく、藩校弘道館の建学の方針を示し、水戸学の原典とされる「弘道館記」を発表、
「検地条目」によって改革後半の取り組みに入る。挿絵をふんだんに用いた「北方未来考」を執筆し、北方防備のため、藩士を蝦夷地に派遣、築城して、ロシアを防ぐ考えを表明。国内外の危機に鑑み、禁じられていた大型船の建造許可など、幕政改革を求める長文の「戊戌封事」をまとめ、幕府に提出するも、
*幕府が認めなかったことから、狩猟を名目に、大規模な軍事演習を举行、諸藩からも注目を集めるが、大砲の製作に、寺院から梵鐘や仏像を供出させて問題となって、幕府からも危険視されるようになり、**

勸進帳初演・1840＝40歳：

天保改革始・1841＝41歳：

天保改革弾圧1842＝42歳：

順天堂始・・・1843＝43歳：

天保改革終・1844＝44歳：

日本最大規模の藩校弘道館が開校、
藩民皆が楽しめるようにと、偕楽園を整備し、食材にもなるようにと、梅を植林、
保守門閥派の反対を押し切って、「検地条目」を完了。その土地政策は当時全国的にも類例がなかった。
*新たに老中首座について阿部正弘から、海防についての意見を求められ、書簡を通じて具申、軍艦製造については、まず幕府が建造、その後、諸藩に許可するとの返信がある。その後も具申するうち、阿部からの信頼を得、幕府に欠かせない人物とみなされるようになって、
*幕府が認めなかったことから、狩猟を名目に、大規模な軍事演習を举行、諸藩からも注目を集めるが、大砲の製作に、寺院から梵鐘や仏像を供出させて問題となって、幕府からも危険視されるようになり、

阿部正弘首座1845＝45歳：

北斎没・・・1849＝49歳：

ペリー来航・1853＝53歳：

***新たに老中首座について阿部正弘から、海防についての意見を求められ、書簡を通じて具申、軍艦製造については、まず幕府が建造、その後、諸藩に許可するとの返信がある。その後も具申するうち、阿部からの信頼を得、幕府に欠かせない人物とみなされるようになって、
*幕府が認めなかったことから、狩猟を名目に、大規模な軍事演習を举行、諸藩からも注目を集めるが、大砲の製作に、寺院から梵鐘や仏像を供出させて問題となって、幕府からも危険視されるようになり、**
*幕府が認めなかったことから、狩猟を名目に、大規模な軍事演習を举行、諸藩からも注目を集めるが、大砲の製作に、寺院から梵鐘や仏像を供出させて問題となって、幕府からも危険視されるようになり、

開国開港・・・1854＝54歳：

松下村塾・・・1856＝56歳：

蕃書調所・・・1857＝57歳：

五ヶ国条約・1858＝58歳：

幕府は、日米和親条約を締結、
この前後、水戸藩の安政改革を指導し、郷校の増設、農兵の設置、反射炉の建設などを進めた。
来日したハリスはこれに満足せず、通商条約の締結を強く要求、拒否すれば即開戦という強硬姿勢、
*自らの子慶喜を推す改革派諸藩と紀州の慶福を推す守旧派とが対立する、將軍継嗣問題が起こるなか、阿部正弘が死去、海防参与を辞任して水戸に退去。新たに老中について井伊直弼は、通商条約締結のため、天皇の勅許を求めたが、
*幕府が認めなかったことから、狩猟を名目に、大規模な軍事演習を举行、諸藩からも注目を集めるが、大砲の製作に、寺院から梵鐘や仏像を供出させて問題となって、幕府からも危険視されるようになり、
*幕府が認めなかったことから、狩猟を名目に、大規模な軍事演習を举行、諸藩からも注目を集めるが、大砲の製作に、寺院から梵鐘や仏像を供出させて問題となって、幕府からも危険視されるようになり、

安政の大獄・1859＝59歳：

桜田門外変・1860＝60歳：

藩士らが次々と、獄門、処刑されるなか、その首謀者として、ついに、水戸に永蟄居となり、
*幕府が認めなかったことから、狩猟を名目に、大規模な軍事演習を举行、諸藩からも注目を集めるが、大砲の製作に、寺院から梵鐘や仏像を供出させて問題となって、幕府からも危険視されるようになり、
*幕府が認めなかったことから、狩猟を名目に、大規模な軍事演習を举行、諸藩からも注目を集めるが、大砲の製作に、寺院から梵鐘や仏像を供出させて問題となって、幕府からも危険視されるようになり、